

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年2月9日

上場会社名 株式会社ジャムコ 上場取引所 東
 コード番号 7408 URL https://www.jamco.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阿部 俊之
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 後藤 健太郎 (TEL) 042-503-9145
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	31,873	18.7	1,577	—	1,328	—	1,231	—
2022年3月期第3四半期	26,842	△29.6	△1,520	—	△1,812	—	△852	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,484百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △718百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	45.90	—
2022年3月期第3四半期	△31.78	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	97,567	12,579	12.5
2022年3月期	93,651	11,095	11.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 12,189百万円 2022年3月期 10,763百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,800	27.4	2,780	—	1,860	—	2,160	—	80.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	26,863,974株	2022年3月期	26,863,974株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	39,041株	2022年3月期	38,964株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	26,824,989株	2022年3月期3Q	26,825,010株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
3. その他	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）拡大の影響から正常化に向けて回復の動きがみられたものの、ウクライナ問題の長期化による原油価格の高騰、原材料価格の上昇など、世界的なインフレによる景気後退局面への懸念などにより、依然として不透明な状況が続きました。このようななかで、ドル円為替相場は対米ドル円レート122円台から150円台で推移しました。

航空輸送業界では、国内線需要の回復に加え、各国の入国制限の緩和や撤廃などにより国際線需要についても回復してきていることから、エアラインでは運休していた機体をサービスに戻す動きや大口の機体発注などの動きが見られました。又、航空機メーカーにおいても航空旅客需要の回復に伴い機体の増産に取り組んでいます。

このように、航空旅客需要の回復がみられるなかで、当社グループでは、需要回復に対応すべく、グループ外出向していた社員を帰任させるとともに、新卒採用活動を開始しました。又、製造工程においては、今後の更なる需要回復に備え、業務効率改善活動を継続するとともに、フィリピン工場の能力・機能拡張計画や国内外のサプライチェーンの強靱化に着手しました。更に、サステナビリティへの対応にも積極的に取り組みました。

航空機内装品等製造関連においては、航空旅客需要の回復に伴い、保有機体を活用するためのメンテナンス部品や客室改修の需要増加がみられ、これらに対応すべく、生産体制強化に取り組みました。又、お客様が航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的なキャビン作りのための製品開発を行い、ギャレー、ラバトリー、シート等への展開を見据えた研究・提案を行いました。

航空機シート等製造関連においては、収益力の高いビジネスクラス・シート「Venture」の他機種展開などに加え、次期ビジネスクラス・シート「Quest for Elegance」の開発にも取り組みました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取組みを行うと共に、熱可塑CFRPを活用した航空機用軽量機体部材の開発やCFRP部材の航空機分野以外への展開を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、エアライン、官公庁向け整備の受注に努め、安定した収益を上げるため事業基盤の強化に取り組みました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 31,873百万円（前年同四半期比 5,030百万円増）、営業利益 1,577百万円（前年同四半期は、営業損失 1,520百万円）、経常利益 1,328百万円（前年同四半期は、経常損失 1,812百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,231百万円（前年同四半期は、親会社株主に帰属する四半期純損失 852百万円）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末に第4四半期連結会計期間以降の完成工事に対する工事損失引当金を 4,414百万円計上しております。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第3四半期連結会計期間において売上原価 581百万円の増加（第2四半期連結会計期間末の工事損失引当金は 3,833百万円）、又、当第3四半期連結累計期間においては売上原価 585百万円の増加（2022年3月期末の工事損失引当金は 3,828百万円）となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費、営業外損益、特別損益の状況は次のとおりです。

販売費及び一般管理費は、人件費、販売手数料の増加などにより 6,041百万円（前年同四半期比 531百万円増）となりました。

営業外損益は、為替相場が前連結会計年度末よりも円安で推移し為替差益が増加しましたが、米国金利の上昇などにより支払利息が増加したことなどにより 248百万円の損（前年同四半期は、292百万円の損）となりました。

特別損益は、連結子会社である JAMCO SINGAPORE PTE LTD. が保有する固定資産の売却による譲渡益として461百万円を計上したことなどにより、478百万円の益（前年同四半期は、417百万円の益）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

[航空機内装品等製造関連]

当事業では、運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したことなどから、前年同四半期に比べ売上高は増加しました。又、経常利益については、売上高の増加に加えて業務効率改善の効果、及び円安による為替差益の発生などから増加しました。

この結果、航空機内装品等製造関連は、売上高 20,256百万円（前年同四半期比 4,291百万円増）、経常利益 2,807百万円（前年同四半期比 2,741百万円増）となりました。

[航空機シート等製造関連]

当事業では、ビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が開始されたことなどから、前年同四半期に比べ売上高は増加しました。一方、経常損益については、円安によるドル建てコストの上昇などにより経常損失となりました。

この結果、航空機シート等製造関連は、売上高 2,279百万円（前年同四半期比 127百万円増）、経常損失 1,537百万円（前年同四半期は、経常損失 1,705百万円）となりました。

[航空機器等製造関連]

当事業では、民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材の出荷は増加しましたが、防衛関連を中心とした熱交換器等装備品の出荷が第4四半期連結会計期間以降に繰り延べられたことから前年同四半期に比べ売上高は減少しました。一方、経常損益については、売上高は減少したものの採算性向上活動への取組みなどから経常損失は改善しました。

この結果、航空機器等製造関連は、売上高 3,109百万円（前年同四半期比 74百万円減）、経常損失 68百万円（前年同四半期は、経常損失 273百万円）となりました。

[航空機整備等関連]

当事業では、部品整備において一部プログラムの完成工事が増加したことなどから前年同四半期に比べ売上高は増加しました。又、経常利益については、売上高の増加などにより増加しました。

この結果、航空機整備等関連は、売上高 6,225百万円（前年同四半期比 684百万円増）、経常利益 127百万円（前年同四半期比 8百万円増）となりました。

[その他]

その他の区分には、連結子会社の株式会社オレンジジャムコの事業を含んでおり、当社施設内の清掃及び補助的作業等セグメント間の内部取引が中心です。

この結果、その他の区分では、売上高 1百万円（前年同四半期比 1百万円増）、経常損失 0百万円（前年同四半期は、経常損失 19百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産・負債・純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は97,567百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,916百万円増加しました。内、流動資産については、受取手形、売掛金及び契約資産の減少(前期末比4,155百万円減)等がありましたが、仕掛品の増加(前期末比6,495百万円増)、原材料及び貯蔵品の増加(前期末比2,910百万円増)等により流動資産合計で前連結会計年度末に比べ4,235百万円増加しました。又、固定資産については、有形固定資産の減少(前期末比588百万円減)、無形固定資産の増加(前期末比313百万円増)等により固定資産合計で前連結会計年度末に比べ319百万円減少しました。負債合計は84,987百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,431百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加(前期末比1,773百万円増)、前受金の増加(前期末比1,689百万円増)等によるものです。

純資産合計は12,579百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,484百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益などによる利益剰余金の増加等によるものです。この結果、自己資本比率は12.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期連結業績予想につきましては、2022年11月8日に発表した「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

連結業績予想の前提となる第4四半期連結会計期間の為替レートは130円/米ドルから変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,276,034	8,847,173
受取手形、売掛金及び契約資産	19,199,303	15,044,158
商品及び製品	2,431,164	1,575,862
仕掛品	20,162,684	26,657,712
原材料及び貯蔵品	18,152,211	21,062,373
その他	2,169,978	2,434,778
貸倒引当金	△120,235	△114,920
流動資産合計	71,271,141	75,507,138
固定資産		
有形固定資産	12,425,792	11,837,782
無形固定資産	1,282,559	1,596,365
投資その他の資産	8,671,614	8,626,085
固定資産合計	22,379,965	22,060,232
資産合計	93,651,107	97,567,371
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,248,801	4,220,234
電子記録債務	2,665,270	2,442,790
短期借入金	48,156,430	49,929,700
1年内返済予定の長期借入金	960,000	1,060,000
未払法人税等	117,705	478,864
前受金	6,241,231	7,930,650
賞与引当金	852,915	634,497
工事損失引当金	3,828,854	4,414,425
その他	3,836,978	3,572,559
流動負債合計	70,908,187	74,683,722
固定負債		
長期借入金	2,310,000	1,280,000
退職給付に係る負債	6,540,444	6,537,082
損害補償損失引当金	912,645	989,363
製品保証引当金	1,166,789	1,166,789
その他	717,953	330,594
固定負債合計	11,647,831	10,303,830
負債合計	82,556,019	84,987,552

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,359,893	5,359,893
資本剰余金	4,318,925	4,318,925
利益剰余金	645,664	1,876,843
自己株式	△31,205	△31,319
株主資本合計	10,293,277	11,524,342
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169,773	161,017
繰延ヘッジ損益	-	31,348
為替換算調整勘定	198,082	390,632
退職給付に係る調整累計額	102,624	82,497
その他の包括利益累計額合計	470,480	665,495
非支配株主持分	331,330	389,980
純資産合計	11,095,088	12,579,818
負債純資産合計	93,651,107	97,567,371

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	26,842,790	31,873,038
売上原価	22,852,835	24,253,723
売上総利益	3,989,955	7,619,315
販売費及び一般管理費	5,510,139	6,041,967
営業利益又は営業損失(△)	△1,520,183	1,577,348
営業外収益		
受取利息	9,803	29,717
受取配当金	2,580	3,664
為替差益	130,189	704,078
持分法による投資利益	58,782	-
受取保険金	47,292	11,911
助成金収入	27,991	53,750
その他	67,568	31,176
営業外収益合計	344,210	834,299
営業外費用		
支払利息	403,079	944,558
持分法による投資損失	-	17,132
支払補償費	181,933	9,550
その他	51,863	111,562
営業外費用合計	636,876	1,082,804
経常利益又は経常損失(△)	△1,812,850	1,328,842
特別利益		
固定資産売却益	-	461,890
助成金収入	675,925	120,041
割増退職金戻入額	1,444	-
損害補償損失引当金戻入益	140,616	-
特別利益合計	817,986	581,931
特別損失		
固定資産処分損	31,747	6,086
新型コロナウイルス感染症関連損失	255,471	96,935
割増退職金	10,987	-
事業整理損	102,544	-
特別損失合計	400,751	103,022
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△1,395,615	1,807,751
法人税、住民税及び事業税	56,248	400,519
法人税等還付税額	△52,602	-
法人税等調整額	△547,020	145,375
法人税等合計	△543,374	545,894
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△852,240	1,261,856
非支配株主に帰属する四半期純利益	344	30,677
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△852,585	1,231,178

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△852,240	1,261,856
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,108	△8,756
繰延ヘッジ損益	△21,302	31,348
為替換算調整勘定	104,221	220,522
退職給付に係る調整額	20,021	△20,127
その他の包括利益合計	134,049	222,987
四半期包括利益	△718,191	1,484,844
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△730,059	1,426,193
非支配株主に係る四半期包括利益	11,868	58,650

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	15,965,633	2,152,719	3,183,706	5,540,621	26,842,679	111	26,842,790
セグメント間の内部 売上高又は振替高	334,193	-	5,331	11,864	351,390	52,761	404,152
計	16,299,827	2,152,719	3,189,038	5,552,485	27,194,070	52,872	27,246,943
セグメント利益 又は損失(△)	66,101	△1,705,572	△273,054	118,867	△1,793,657	△19,192	△1,812,850

(注) 「その他」の区分には、関係会社の(株)オレンジジャムコの事業を含んでおります。同社は企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△1,793,657
「その他」の区分の利益	△19,192
四半期連結損益計算書の経常利益	△1,812,850

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,256,837	2,279,785	3,109,531	6,225,083	31,871,237	1,800	31,873,038
セグメント間の内部 売上高又は振替高	293,838	-	2,887	27,889	324,615	89,067	413,682
計	20,550,675	2,279,785	3,112,418	6,252,972	32,195,853	90,867	32,286,721
セグメント利益 又は損失(△)	2,807,530	△1,537,452	△68,138	127,406	1,329,346	△504	1,328,842

(注) 「その他」の区分には、関係会社の㈱オレンジジャムコの事業を含んでおります。同社は企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,329,346
「その他」の区分の利益	△504
四半期連結損益計算書の経常利益	1,328,842

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

該当事項はありません。